

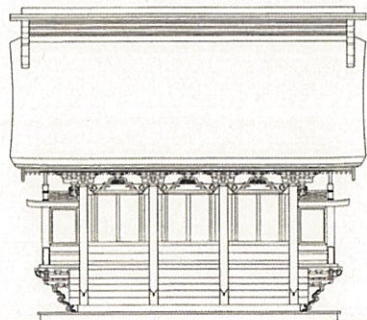
有形文化財 浅間神社 本殿一棟 附・棟札二枚



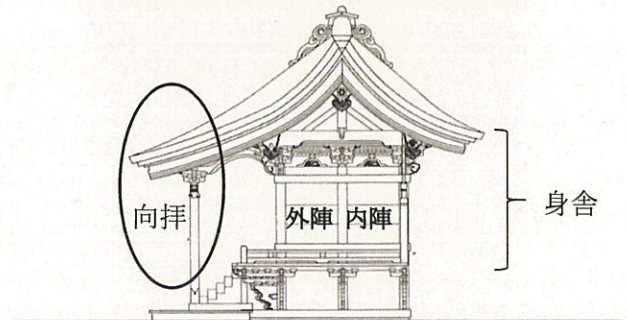
雨屋拝殿 天保二（1831）年 本殿を覆う切妻造の覆屋。

浅間神社本殿の特徴について

- ・三間社流造→屋根の正面側が庇のように前に張り出した建築様式を流造という。そのうち正面の柱が2本なら一間社、3本なら二間社、4本なら三間社となる。（流造＝神社建築のひとつ）
- ・二重軒付→二重の垂木で構成されている軒



浅間神社本殿（正面図）



浅間神社本殿（側面図）

身舎（もや）  
主要な柱に囲まれた建物の  
本体部分（内部に御神体が祀  
られている）





本殿向拝  
(正面)

向拝  
(こうはい・  
ごはい)  
参拝人の  
礼拝のため  
に、仏堂や  
社殿の正面  
の中央に張  
り出して設  
けた庇。

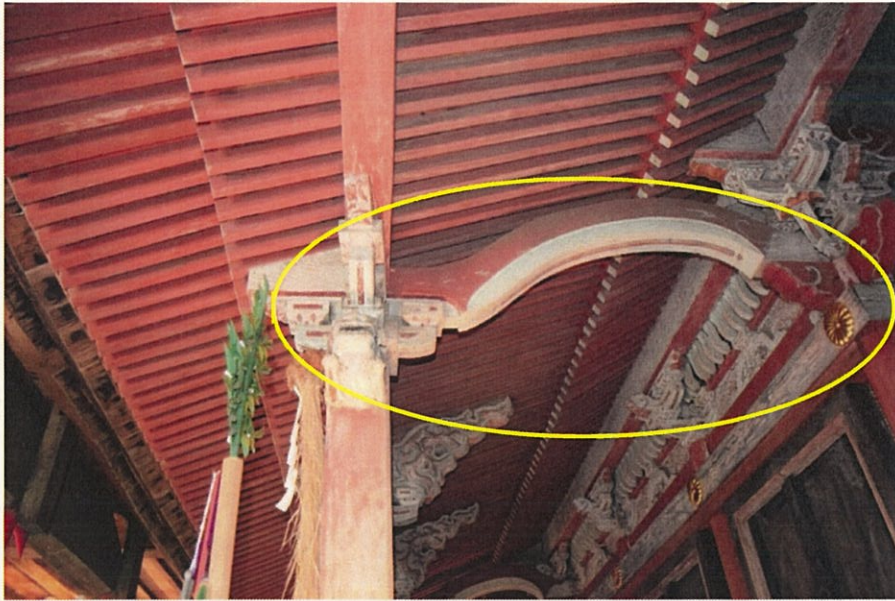
向拝  
水引虹梁



本殿向拝  
(側面)

向  
拝  
柱



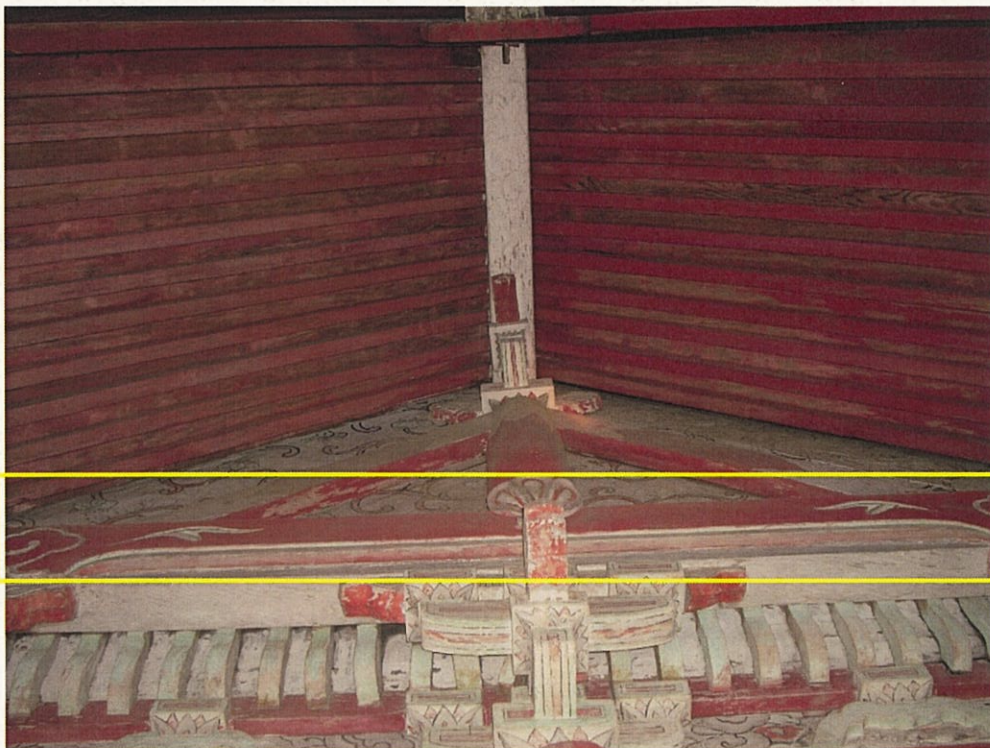


本殿向拝蝦虹梁

蝦虹梁

(えびこうりょう)

虹梁とは、虹型で上方にやや弓なりに反り返った梁であり、海老のように大きく反り返っているものを蝦虹梁という。



本殿妻側 妻虹梁

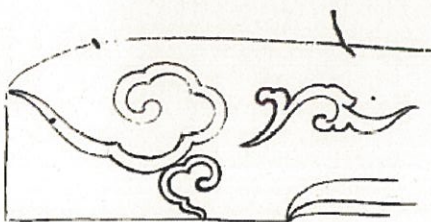
妻虹梁

(つまこうりょう)

屋根の妻側にあらわれている虹梁。

I 渦と若葉が分離。

II 渦と若葉が一体化。また渦と若葉全体が天象または植物。



『家作彫物図』 寛永元(1624)年



『匠家雛形 上之巻』 延享4(1747)年



同左





本殿手挟

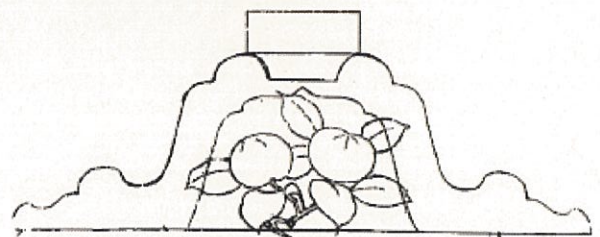
手挟 (たばさみ)  
向拝の柱の内側などにおいて、肘木と垂木の間に設けられる三角形の材。



本殿蟬股

蟬股 (かえるまた)  
蛙が踏ん張った形に似ている重量を支える束材。

1' 古典的脚部に単純な植物の内部彫刻。



『絵様(政治本)』 宝永(1704)~正徳(1715)頃



棟札 (本殿慶長 18 年(1613)造立棟札)

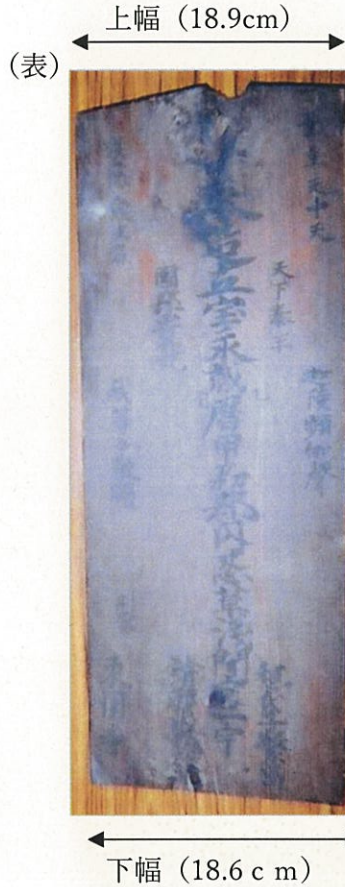


于時慶長十八癸丑年霜月申日 敬白  
 信心之願主 渡辺勝左右衛門  
 (梵字) 奉造立当社浅間大菩薩御神前  
 建立之大檀那内於民女  
 大工貳百人萱沼弥左右衛門  
 同名 与拾郎  
 殊二信心大檀那息災延命成就所



千宮小佐野伊勢真勝 (花押)

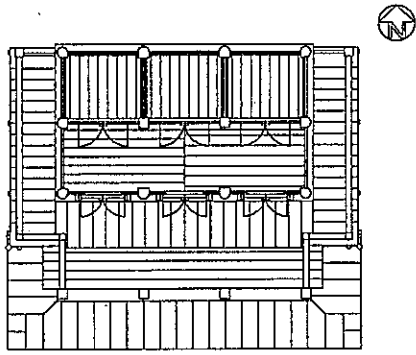
棟札 (本殿宝永2年(1705)造立棟札)



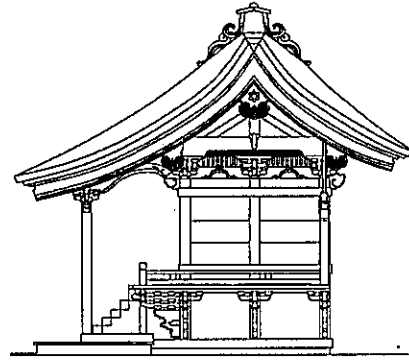
聖主天中天 迦陵頻伽声  
 天下泰平  
 (梵字) 奉造立宝永貳乙酉歷甲州郡内思慕草浅間宮一字  
 想氏子繁昌  
 諸願成就祈攸  
 国郡豊饒  
 哀愍衆生者 我等今敬礼 别当 東円寺



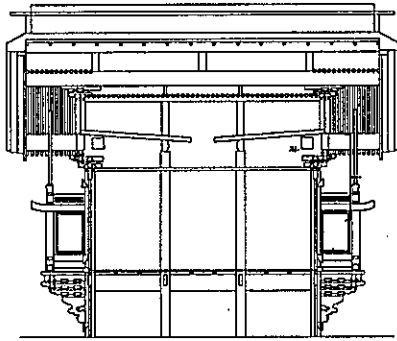
(梵字)  
 大工勺数六百捨四工、内五捨人者忍草村  
 當村名主 同 同 同 同 同 同  
 下吉田村大工 萱沼 弥左右門  
 同断 芳兵衛  
 同 市良兵衛  
 同 八良左衛門  
 渡辺 善次郎  
 内五捨人者忍草村  
 大森 理右門  
 同名 次良右門豊政



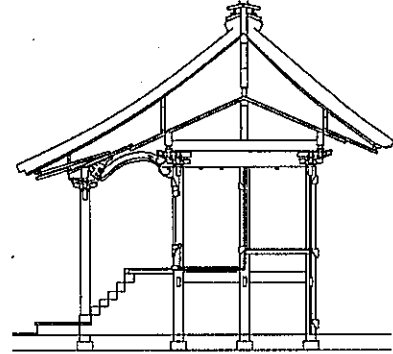
本殿平面図



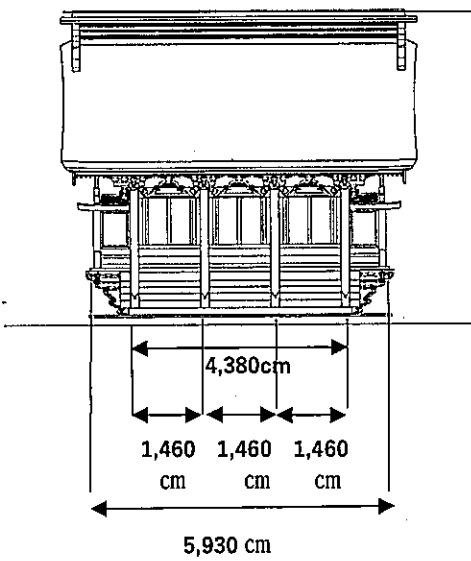
本殿立面図



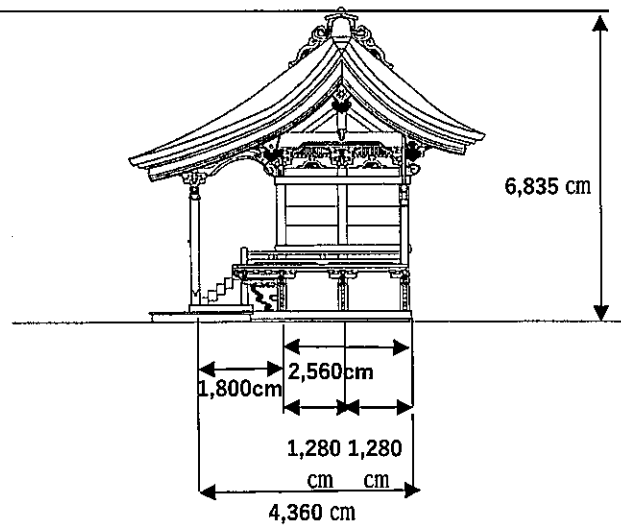
本殿断面図



本殿断面図



浅間神社本殿 (正面図)



浅間神社本殿 (側面図)